裏表紙ー表紙

発行｜茨木市都市政策課・One Art Project

real SOU と本町センター

2019-2020 | ARCHIVE

p2 — p3

real SOU #2 | 冨倉崇嗣（左）三宅紗織（右）　表紙 | real SOU #4 | 安田知司

2　real SOU と 本町センター
3　本町センター
4-5　展覧会に向けて
6—9　real SOU 展覧会
10-11　real SOU 関連イベント
12—15　茨木市都市政策の観点から
偶然をつないでいく | 杉浦啓太
16　広報物
real SOU　町と共に | 加須屋明子
17　茨木に行った事、思った事 | 古畑大気
ヨムラムcoffeeを通して得たもの | 井上朋
18　One Art Project
19　出逢いの時間　本町センター | One Art Project
20　その後の本町センター

real SOU と本町センター

2019-2020 | ARCHIVE

real SOU #2	2019年1月26日—2月3日
real SOU #3	2019年7月13日—15日、7月19日—21日
real SOU #4	2020年2月2日—2月11日
real SOU #5	2020年9月18日— 9月22日
real SOU #6	2020年12月10日—12月14日

real SOU #4 | 松井智恵

p4 — p5

SOU-JR総持寺駅アートプロジェクト 第2回展示 | 岩田小龍「a violinist」の大型プリント展示

real SOU #2 | 岩田小龍「a violinist」の実際の作品

real SOU と 本町センター | 元公設市場の空き店舗を使っての展覧会

real SOU —「SOU」のほんもの作品展 |

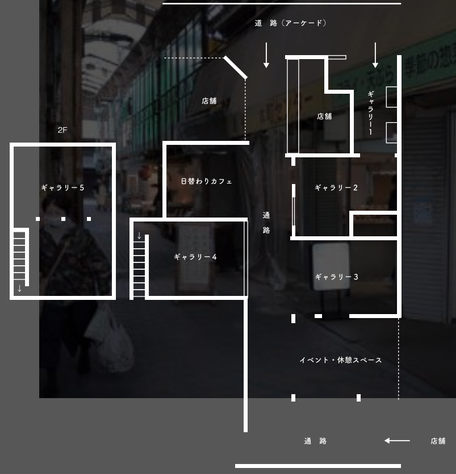
SOU-JR 総持寺駅アートプロジェクト（以下 SOU）での半年間の大型プリントによる展示に合わせて、期間中に本物の作品を鑑賞する展覧会。

SOU での取り組みが駅を利用する不特定多数の人々に大型プリントによって「多様な表現、アートとの出会い」を目的とするのに対し、real SOU はその作品の実物の力（魅力や説得力）を体験してもらうために、One Art Project が主催・企画して開催。アーティストとその表現活動をより身近により理解するために、SOU での作品の他に周辺作品数点も併せて展示。またホワイトキューブではない生活空間への展示を試み、アートと日常の関係を問いかける。
会期中、茨木の街中のアート作品をめぐるアートツアーやワークショップ、展示作家を招いてのトークイベントや作家インタビュー映像の放映、クイズラリーの開催を行う。
また会場内には来場者が滞留することや交流を生む目的として仮設カフェを併設するなど、作品と作家に地域が多面的に関わる機会を作る。

本町センター |

茨木市の中心市街地、茨木本通り商店街の北に位置する元公設市場。現在（2021 年 5 月）、スーパーマーケットや商店が営業を行っている。一方でテナントの入っていない空き店舗が数軒ある。（一部空きテナントには現在入居済み）
展覧会時には 5 つのギャラリースペースとイベント・休憩コーナー、日替わりカフェスペースを設営し、3 カ所の出入り口によって通り抜けができる。

real SOU #5 の会場配置図



かつての本町センターとその周辺 |

この辺りは「茨木銀座」と呼ばれ、銀行を始め、家具屋、荒物屋、呉服店、雑貨屋など100軒にも及ぶ店舗が並んだ大商店街があり、公設市場も広域に広がりかつては北摂随一の賑わいをみせていたと聞きます。
大阪万博開催後に始まった茨木フェスティバルのイベント時などは狭い通りは人で埋め尽くされていました。

本町センター | 1975年（昭和50年）ごろ

real SOU #1 | GLAN FABRIQUE「la galerie」での展示

茨木市都市政策課と居住政策課との現地視察

茨木市都市政策課と居住政策課との現地視察

real SOU #1、その後 |

real SOU #1 は、築 100 年超の木造邸宅をリノベーションしたオルタナティブスペース、GLAN FABRIQUE「la galerie」で開催されました。古民家でのギャラリースペースは通常のホワイトキューブでの展示とは異なり、元々の空間を活かすこと、作品と空間の調和を考え、かつ作品を最善のかたちでみせることへの両立はのちの本町センターでの展示の方法論のベースとなりました。

茨木市には現代アートの展示のための美術館やギャラリーがなく、いかに作品を最善のかたちで展示できるかを模索しました。
様々な地域で行われている生活空間を利用したアートプロジェクトや展覧会イベントを参考としながら、空き店舗や空き家を茨木市都市政策課と居住政策課の協力を得ながら調査しました。

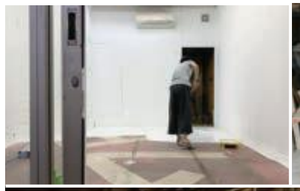
そのうちの一つ、この本町センターは元公設市場という複数の使われていない店舗が集合しており、各空き店舗にはかつての商店の内装の名残りがあり、それぞれの部屋が個性的で、その中を巡ることができるという大変貴重でユニークな空間でした。一見現代アートの展示には相応しくないと思われるこの本町センターを real SOU の展示場所に選びました。

片付け・掃除・ペンキ塗り |

それまでの空きテナントの様子は、資材置き場であったり施工途中や使われていない状態でした。もともと多くの資金を持たないこの取り組みは、空間をリノベーションしたり特設のために施工することは想定しておらず、空間からすべての物品を撤収し、徹底した掃除をすることでした。
展示の回を重ねるごとに少しずつ壁面を塗装したり、使用空間を広げていきました。通路の雨漏りを修繕するために天井の上に入るなど、本町センターの見えない部分や構造を知ることとなり、4 回目と 5 回目の展示では 2 階部分に映像の展示室を設けることができました。

展示・設営 |

通常現代アートの展示はホワイトキューブのような空間で作品をニュートラルにみせるという方法が定石とされていますが、現状そのような環境を確保することは難しく、SOU の理念である「いかに日常の時間の中でアートに触れ、そのあり方を問い続ける」という考えの下、日常（生活）空間を利用した展示を試みることにしました。
作品は各部屋、各壁面との関係性を考え、作品を選定し展示を行いました。時には作家にこの場所ならではの展示の提案も行い、この場所だからこそのアートのあり方を提示することができました。



p8 — p9

real SOU #2　やさしい贈り物

岩田小龍 | 冨倉崇嗣 | 三宅砂織 | 茨木市在住の小学生27人

2019年1月26日—2月3日

来場者 | 360名

real SOU #3　イメージの扉

橋本良平 | 長谷川一郎 | 岡本啓 | ミヤザキ

2019年7月13日—15日、7月19日—21日

来場者 | 270名

real SOU #4　時の戯れ

安田知司 | 濱中徹 | 高倉大輔 | 松井智恵

2020年2月2日—2月11日

来場者 | 390名

real SOU #5　Walking

宇仁英宏 | 鈴木崇 | 古畑大気 | THE COPY TRAVELERS

2020年9月18日— 9月22日

来場者 | 383名

real SOU #6　そこから 眺める 向こう

松田豊美 | 林勇気 | 張騰遠 | 阿部海太

2020年12月10日—12月14日

来場者 | 304名

real SOU #5 | 宇仁英宏
real SOU #4 | 安田知司
real SOU #6 | 林勇気

real SOU #2 | 冨倉崇嗣(左)　岩田小龍(右)
real SOU #6 | 阿部海太
real SOU #5 | 古畑大気

real SOU #4 | 濱中徹
real SOU #2 | 冨倉崇嗣
real SOU #3 | 橋本良平

real SOU #3 | 長谷川一郎
real SOU #5 | THE COPY TRAVELERS
real SOU #6 | 林勇気

real SOU #6 | 張騫遠(チャン・テンユアン)
real SOU #3 | 岡本啓
real SOU #2 | 冨倉崇嗣(左)　三宅砂織(右2点)

real SOU #3 | ミヤザキ(左)　岡本啓(右)
real SOU #6 | 松田豊美
real SOU #2 | 茨木市在住の小学生27人

real SOU #4 | 髙倉大輔
real SOU #2 | 三宅砂織(左)　岩田小龍(右2点)
real SOU #4 | 髙倉大輔

real SOU #5 | THE COPY TRAVELERS
real SOU #2 | 三宅砂織
real SOU #3 | ミヤザキ(左)　橋本良平(右)

real SOU #2 | 冨倉崇嗣
real SOU #4 | 松井智恵
real SOU #3 | 岡本啓(左)　長谷川一郎(右2点)

real SOU #5 | 鈴木崇
real SOU #6 | 阿部海太
real SOU #4 | 溝中徹

p12 ― p13

real SOU #5 | 日替わりカフェ | 茨木ラマン | 2020.9.18,20
real SOU #3 | まちなかアートウォークツアー | 2019.7.14
real SOU #5 | 鑑賞プログラム | Walking-作品の中を歩こう | 2020.9.18-22

real SOU #3 | 学生カフェ | 喫茶もとまち | 2019.7.13-15,19-21
real SOU #4 | 日替わりカフェ | イロトカオリ | 2020.2.10
real SOU #3 | レセプションパーティー | SOU×HUB 合同交流会 | 2019.7.20

real SOU #2 | トークイベント | アートプロジェクトから街の活用・再生へ | 2019.2.2
real SOU #6 | 参加インタビュー映像（手前） 鑑賞プログラム（奥）| 2020.12.10-14
real SOU #6 | 日替わりカフェ | 茨木ラマン | 2020.12.10,11

real SOU #5 | 日替わりカフェ | Art Space & Cafe Barrack | 2020.9.21,22
real SOU #4 | トークイベント | SOUの作家に触れる | 2020.2.8
real SOU #5 | 日替わりカフェ | One Art カフェ | 2020.9.19

real SOU #6 | 日替わりカフェ | ちゃを | 2020.12.13
real SOU #2 | ワークショップ | アートグッズをつくろう | 2019.2.2
real SOU #3 | ミヤザキさんの似顔絵イベント | 好きなものと一緒にがおえ | 2019.7.20

real SOU #3 | トークイベント | SOUの作家に触れる | 2019.7.20
real SOU #6 | 日替わりカフェ | ヨノナナメキッサ | 2020.12.12
real SOU #2 | 学生カフェ | ヨムヨムcoffee | 2019.1.26-2.3

茨木市都市政策の観点から

次なる茨木・グランドデザイン　―これからの中心市街地を見据えて―

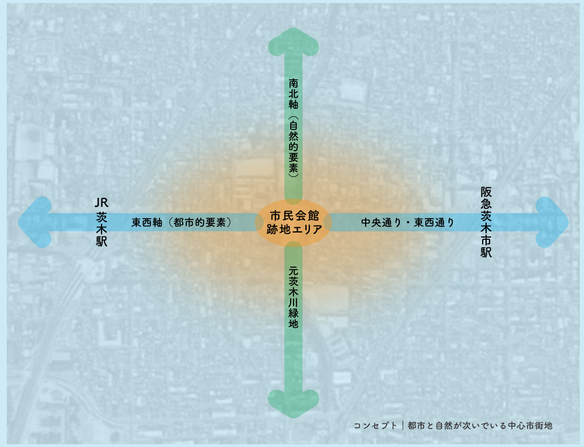
茨木市の中心市街地では、1970年（昭和45年）の万博開催に合わせて整備された、阪急茨木市駅・JR茨木駅の駅前施設や市民会館といった都市の基盤となる主要な施設が、老朽化などにより同時に更新が必要となり、大きなターニングポイントを迎えています。

そこで、茨木市では、両駅周辺のエリアを「コア」、中央の市役所・市民会館・中央公園・元茨木川緑地のエリアを「パーク」と位置づけ、「2コア1パーク」の都市構造の実現による中心市街地の活性化を目指し、市民会館跡地の活用や両駅前の再整備といった新たな拠点づくりを進めています。

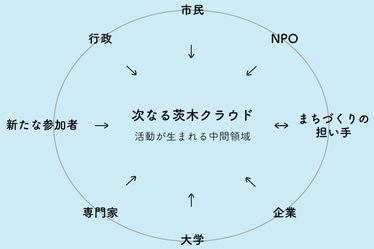
そのような中、各施設の更新をあるひとつの場所での出来事「点」で終わらせるのではなく、エリア全体に「面」として波及させていくため、多様な主体（市民、民間、大学、企業等）と関係、対話しながらまちの全体像、将来像を描く「次なる茨木・グランドデザイン」の取組を2018年（平成30年）に開始しました。そのコンセプトとして、茨木市の中心市街地の特徴から「都市的な要素（交通利便性、にぎわい、若者）」と「自然・文化的な要素（緑、歴史、文化）」が出会い、活動が生まれる「場（公共空間、民間との中間領域）」を作り出していくことを掲げました。また、場を実際に使い、活かす人々のつながりやまとまりを「次なる茨木・クラウド」と呼び、人々の出会いによる化学反応やさまざまな出来事が絶えず起こることを目指していくことにしました。その一環として「IBALAB（イバラボ）」という社会実験を行い、暫定の芝生広場での活動などを通して、人々のつながりや活動を継続的なものにし、裾野を広げていくため、多様な主体と連携しながら、さまざまな試みを行っています。

この本町センターでの「real SOU」のプロジェクトは、その試みのひとつとして、多様な主体が連携し、新たな活動が生まれる場をつくる、実験的な取組として関わり始めたものでした。

活動を促す場づくり（ハード）

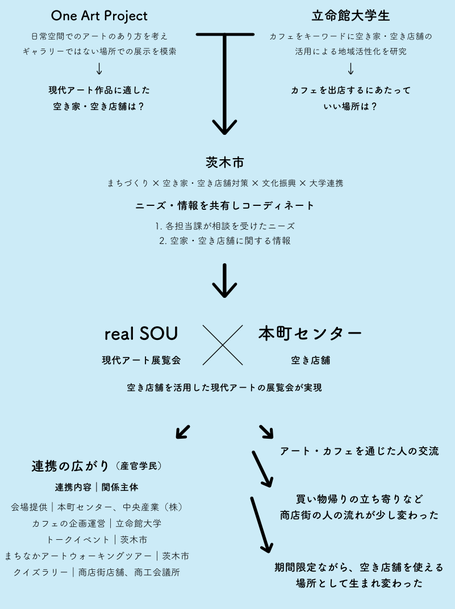


多様な主体による活動（ソフト）



都市的要素	便利	交通の便が良い・コンパクトな立地
	賑わい	歩いていて買い物ができる・個性的な店舗
	次世代	大学生・若者など
次いでいる場所づくり	つながる	都市・自然・人
	連続する	元茨木川緑地・一方通行化
	接点となる	駅・市民会館など
自然的要素	緑	元茨木川緑地・中央公園
	歴史	茨木城下・在郷町
	文化	川端康成文学館・北部地域への玄関口

活動が生まれる中間領域（公共・民間）を積極的につくりだす



目的意識と成果

本町センターでの「real SOU」の試みでは、大きく3つの目的意識をもっていました。

まず一つ目が、空き家・空き店舗の活用です。人口減少やライフスタイルの変化など社会経済情勢の変化に伴い、空き家・空き店舗の問題が社会問題となっています。茨木市では、まだ顕著になっているわけではありませんが、今後増加することが予想されるため、その対策は行政課題のひとつとなっています。空き家というと管理がされていないことなどによりネガティブな問題が表面化しがちですが、地域の既存ストックと捉えると資源としての価値も有するものです。今回の取組では、商店街で空き店舗になっている本町センターでアートの展示を行うことで何かが起こるのではないか、と考えていました。

次に二つ目が、大学との連携です。茨木市には、中心市街地内に立命館大学が開学するなど、大学が多いということもあり、大学連携に力を入れています。特に近年、地域の課題解決や活性化をテーマに研究等を行う学生も多く、その発想力や行動力など、地域にもたらす影響に期待をするところも大きいです。今回の取組に大学との連携を組み込めないかと、模索していました。

最後に三つ目が、多様な主体との活動の実践です。多様な主体と関わりながら、活動が生まれる場をつくりだすということをまちづくりのコンセプトとして掲げた上で、その過程に行政としてどのように関わり、どのような役割を果たすことができるのか、試行錯誤の中で今後の方向性を見出していきたいというものです。

この試みでは、アートの展示を中心に、立命館大学の学生によるカフェ、市内事業者等による日替わりのお店、アートに関するトークイベント、商店街でのクイズラリーなど、多様な主体と様々な仕掛けを行うことで、アートやカフェを通じた人の交流が生まれ、買い物帰りに立ち寄る人が見られるなど、人の流れに変化も見られ、期間限定ではありますが、空き店舗を活用した光景を実際につくりだすことができました。

若手職員の視点

はじめて本町センターに行った時は、かつての商店の資材がまだ残っていて、ひっそりとした不思議な空間でした。今度その場所で大学生がコーヒーをふるまう、とその場で聞いたのですが、その時点ではどんな風になるのか、想像ができませんでした。大学生が使うというその一角はからっぽの空間で、コンクリートの床で無機質な場所でした。

数週間後、実際に作品が展示されている時に本町センターを訪れると、大学生がブックカフェを運営していました。数週間前に見た空間とは異なるオーラをまとった空間になっていました。無機質だったその場所が、ふらっと立ち寄ってみたくなると思えるような場所に生まれ変わっていて、そのほんの数週間のうちの変化に驚きました。

大学生が新しい価値を加えたその空間は、その後の展示でも様々な人たちが入れ替わりながら、出店者それぞれの雰囲気をまとった場所になりました。先駆者として手を加えてくれた存在があったからこそ、その後の人たちが思い思いに工夫を凝らして彩ることができたのではないかと思います。
いろんな人が関わることや、様々な主体が連携することは、互いの予想や想像の範囲を超えた、新たなものが生まれる可能性をたくさん持っています。このプロジェクトでは、本町センターという場所を媒介にして、いろんな人の工夫や経験がつながっていく様子を見ることができました。

偶然をつないでいく

記録集を作るにあたって、本町センターでの「real SOU」が始まった経過を思い出していました。
One Art Projectの二人から「中心市街地の空き家や空き店舗を使って、アートの展示をしてみたい」、「ギャラリーのような出来上がった空間ではなく、まちなかの人の流れがあるような、面白い場所はないかな」と相談があって、果たしてそんな場所あるかな、と思ったことを記憶しています。
その時、私自身は「グランドデザインとクラウド」の取組を始めたところで、どのように形にしていけばいいかと思案しながら、ひとまず、いろんなところに顔を出したり、まちづくりに関する相談を引き受けたり、試行錯誤しているところでした。
ここから偶然が積み重なっていきます。
本町センターは、以前空き家対策に携わっていた中で、空き店舗になっていて何ができないかとオーナーが考えているとの情報を得て、現場を見たことがありました。その時、だいぶ古いけれど、昔の市場の雰囲気を残した独特の空気感があって、面白い空間だと感じたことを思い出しました。そこで、ひとまず現場を見てもらおうと思い、オーナーに相談すると、「昔は私設でギャラリーをやっていたこともある」とのことで、オーナーの部屋には確かにたくさんの絵画が飾ってありました。それで、空き店舗でのアートの展示にも関心を示してくれました。
不思議なもので、最初の部分で理解しあえているとあとはスムーズに話が進んでいきました。そこから、たくさんの人たちの関わりと、前向きな行動が積み重なって、実現にこぎつけることができました。関係者の方々に感謝申し上げます。
アートが展示された本町センターとそこで活動する人たちの姿を風景として見たときに、今取り組んでいる「グランドデザインとクラウド」が形となって浮かび上がってきたように感じました。多様な主体による活動、都市と自然がつながる場、といった頭の中でイメージしていたことが目の前に広がっていて、こういうことを実現していきたかったんだ、と感じたことを今でも鮮明に覚えています。
それ以降、回数を重ねる中で、流れに身をまかせながら、大学生にカフェをやってもらったり、時には自分でコーヒーを入れてみたりと（まさか自分でやるとは思ってもみませんでした）、関わる人も増えながら、実践を繰り返し、定着していきました。この過程の中で、本町センターでイベントをしてみたいと相談を受けたり、実際にイベントを行う人も現れました。
そして、ついにこの場所が気に入ったということで、おしゃれな雰囲気のマフィンのお店ができ、それをきっかけにネパール料理、タロット占い、と次々にお店が決まり、「裏いば」と呼んで盛り上げていこうという動きが出てきて、アートの展示をする場所がなくなるというところまできました。
ここまでの変化は、私自身、まったく予期していなくて本当に驚いています。
私がしたことといえば、One Art Projectの二人とオーナーを引き合わせたことぐらいです。でも、それがすべての始まりには違いなくて、私自身がひとまず人に会ってみたり、話を聞いたりしていたこと、何らかの意味を感じつつもすぐに意味をもたらさなかったことが、偶然につながっていく、そんな体験でした。
これからもまちで起こる偶然に身をゆだね、楽しみながらつないでいくことを続けていきたいと思っています。

杉浦啓太｜Keita Sugiura
茨木市都市政策課

p18 ― p19

real SOU｜広報チラシ（#2〜#6）

#2〜#4 は裏面に「まちなかクイズラリー」用紙を掲載
#5、#6 は裏面に「鑑賞プログラム｜作品の中を歩こう」用紙を掲載

real SOU　町と共に

2018年、JR総持寺駅開業をきっかけに始まったSOU（JR総持寺駅アートプロジェクト）では、駅改札前の自由通路の壁面を利用して様々な作品が大型プリントとして展示され、幅広いジャンルや年齢層の作品が毎回あるテーマに基づいて選定されている。美術館やギャラリーなど、特別な場所に足を運ばなくても、日々の暮らしの中で駅を利用するごとに体験でき、身近な暮らしの風景として根付いていることが素晴らしい。この1年余り、コロナ禍で外出がためらわれる中でも散歩の足をのばして鑑賞するのが楽しみの一つとなっている。

real SOUは、このSOUで壁面にプリントされた原作品を中心に、各作家それぞれの周辺作品も合わせて展示することで、本物ならではの魅力を伝えると同時に、茨木市中心部の空き店舗を展示場所として活用することによって、生き生きとした街並みに作品が展示されて、こちらもまた、美術館や画廊といった既存の施設で展示することとは異なる、新たな魅力が発信されていた。はじめから展示のために作られた空間とは異なって、既存の施設の再活用には様々な困難も伴う挑戦でもある。まずは掃除、片付けから始まって、空間づくりは工夫のしどころでもあり、いかに元の姿を生かしながら作品を展示するための空間へと生まれ変わらせるか、場所との対話が続く。作品を身近に感じるためのアートウォークツアー、トークイベント、クイズラリー、学生と協力しながらのカフェ営業など幅広い年齢層に対する細やかな働きかけも、膨大な作業量であることが容易に想像できる。そうした丁寧で粘り強い積み重ねによって、年を追うごとに場の力がより一層発揮され、地元の商店街に出現する展示空間、数々の作品たちと、そこに集う人々の創造的エネルギーは、毎回嬉しい驚きとともに様々な発見をもたらしてくれる。JR総持寺駅のSOUと合わせて、 real SOUは、町とともに歩みを進める得難い試みとして、今後も広がりが期待される。

加須屋明子｜Akiko Kasuya
京都市立芸術大学教授

茨木に行った事、思った事

2020年春、SOUの第5回に参加させていただきました。展覧会タイトルは「Walking」で私はパソコンによるドローイング「お天気」を拡大して展示させていただきました。家の近所や仕事などで出向いた先々で撮りためた写真から描き出したシリーズです。出歩くのはあまり好きではないのですが、「Walking」というタイトルを聞いてなるほどなと作者なのに思いました。

それはさておき参加作家ながら real SOUに関する記録集についてテキストをということで私の目線で書けることが何かないかと考えてみました。私自身は2017年に愛知県瀬戸市でArt Space&Cafe Barrackというスペースを画家の近藤佳那子と2人で始めました。各々で作品を制作しつつBarrackとしても展覧会に参加したりもしています。企画から主体となって行った遊休施設を利用した「瀬戸現代美術展2019」にはOne Art Projectのお二人にもご来場いただき瀬戸市と茨木市の交流が始まった気がします。

9月のreal SOUではBarrackとして出張カフェをしに初めて茨木市を訪れました。会場となった本町センターは市場のような場所で、茨木市の都市政策課の方が見つけて来たそうですが空き店舗とアーティストは好相性だなと改めて感じました。周辺はとても栄えていましたが本町センターの周りだけ人出がぽっかり空いたような不思議な場所でした。Googleマップで見てみたら周辺はいくつもの商店街で囲まれていました。瀬戸市は抱える空き家問題と相反するように多くのアーティストを抱えています。茨木市には空き家問題はあまりないのではと思いましたがアーティストがいかに自身の居場所を作っていくかということに対して行政ができることはどちらも同じではないでしょうか。みなさま愛知県にお越しの際は瀬戸市まで足を伸ばして是非Barrackにご来訪ください。美味しいご飯と何かしらの展示がやっているはずです。

古畑大気｜Taiki Furuhata
アーティスト・SOU第5回展示「Walking」参加
Art Space & Cafe Barrack 主宰

ヨムヨムcoffeeを通して得たもの

「real SOU #2 やさしい贈り物」にてブックカフェ「ヨムヨムcoffee」を企画してから2年が経過しました。大学4回生の卒業までに向けた期間、所属するゼミの活動を通して取り組んだこのプロジェクトは、私の人生において貴重な経験となりました。
ゼミで与えられた、茨木市活性化のために何ができるかというテーマのもと、私の班は茨木市の空き家・空き店舗の増加という点に着目しました。空き家のリノベーション事業を実際に行っていた友人に話を聞いたり、茨木市内を歩いて回ったりしたものの、なかなか活用方法のイメージがわかずにいました。今後の方針を模索していたとき、茨木市の都市政策課を通じてOne Art Projectで活動されていたお二人をご紹介いただきました。空き家・空き店舗活用という目的が一致した、いわゆるマッチング成立により本企画が始まりました。そして、私たちゼミのプロジェクトメンバーは、作品展を通じてアートに触れることのできるカフェづくりを目指し、アート本を配置したブックカフェの運営を決定しました。
初めて訪れる茨木市本町センターには家具が敷き詰められていたり、閉店してそのままの状態のブティックが並んでいたりで、作品展・ブックカフェの運営は当初想像もつきませんでした。空き店舗におかれていたものをすべて運び出し、人生で初めて壁にペンキを塗りました。また、すべてをいちから作り上げるためにブックカフェで使用する家具は「リノベのいばらき」ご協力のもとゼミのメンバーでDIYを行いました。「ヨムヨムcoffee」は近隣の商店街の方や大学の友人、スタンプラリーをクリアした親子など様々な方にお越しいただき、作品展と一体となったブックカフェとなりました。展示期間は真冬でしたが、カフェに訪れた方々の笑顔が温かい空間を作り上げていたように思います。すべてが初めてで右も左もわからない大学生でしたが、One Art Projectのお二方はもちろん、茨木市役所の皆様、近隣店舗の方の支えによりブックカフェの運営を成功させることができました。
私が直接活動したのは第2回の作品展のみでしたが、作品展・ブックカフェを運営した本町センターは大切な思い出の場所となりました。また、空き家・空き店舗の活用という大学生には到底実現しえなかった規模の取り組みに携わることができ、私自身の成長にもつながりました。本町センターでの作品展に引き続き、SOUおよび real SOUの今後のさらなるご発展をお祈りしております。

井上朋｜Tomo Inoue
地方公務員
立命館大学経営学部経営学科卒業生・ヨムヨムcoffee運営メンバー

p20 ― p21

real SOU 企画・運営｜One Art Project

One Art Project｜

稲垣元則と藤本聖美によるアートプロジェクトユニット。2017 年結成。
大阪府茨木市にて、SOU（JR 総持寺駅アートプロジェクト）や CACOIBA（茨木市市民会館跡地仮囲い ART PROJECT）の企画運営を行う。
他にも展覧会企画やワークショップの開催、講演など、芸術文化的活動の提供とその社会的意義の理解促進及び実践を目的とし、美術表現活動と美術教育の観点からアートと地域を多面的に繋げる活動を行う。

主な活動｜

アートプロジェクト・展覧会｜
SOU-JR 総持寺駅アートプロジェクト｜企画・運営（2018～、以降半年ごとに更新・継続、現在に至る）
「real SOU」SOU のほんもの作品展｜主催・運営（2018～、以降半年に一度開催、現在に至る）
カコイバー茨木市市民会館跡地仮囲い ART PROJECT｜企画・制作（2019～2020）
茨木映像芸術祭｜企画・運営（2020～2021）
アートプロジェクト「あしたのこと」（イオンタウン茨木太田）｜企画・制作（2021～）

講演・トークイベント｜
追手門学院大学『アートとコミュニティーの繋げ方』（2019）
iTohen「SOU - JR 総持寺駅アートプロジェクトって？・・・」（2019）
追手門学院大学フィールドワーク作品展「視点」『答えがないということ』（2019）
「Any アート 99」トーク session『答えがないということ・まちとアートと生活の関係を考える』（2020）

ワークショップ｜
茨木市こども芸術文化講座『花のうた』（2018）
茨木市出張芸術文化講座『もくもくもくも』（2019）

その他｜
アートマップ制作
茨木市川端康成文学館広報物デザイン
Ibalab@ 広場看板デザイン
SOU 作家インタビュー映像制作

作家インタビュー映像｜Walking｜SOU 第５回展示
https://www.youtube.com/watch?v=d9P8FxI7o1c

作家インタビュー映像｜そこから眺める向こう｜SOU 第６回展示
https://www.youtube.com/watch?v=-RotFNsvA9I&t=73s

One Art Project ウェブサイト
https://www.oneartproject.net/

出逢いの時間　本町センター

私たちは「いかにして作品を最善の方法で、新しい見せ方や新しい伝え方ができるか」をまず考えます。ギャラリーや美術館などは能動的行動の中から表現に触れることのできる環境です。しかしその限られた環境の外側にはもっと多くの人の感性が存在しているはずです。人の感性や、その感性の芽生えを育む環境が身近にあることは能動的行動を起こさせる以前に必要なことではないでしょうか。
そこで私たちは、SOU（JR総持寺駅アートプロジェクト）や、real SOU（SOUのほんもの作品展）、またカコイバ（茨木市市民会館跡地仮囲いアートプロジェクト）で、受動的な環境の中でアートに触れる機会をつくることに努めています。
そこには、美しさや良さ、優れているものの答えとしてアートを提示するのではなく、作品からひとりひとりが自由に感じ、考えることのできる場の創出をしたいと思っています。

作品は作家が人生を賭けて制作し、それぞれの表現は個性的でありそれゆえに多彩です。そしてそれは社会にユニークで斬新な観点を与えてくれます。
様々な人が多様なアートに身近なところで出会い、人それぞれが持つ豊かな感性を引き出せる場所として、市役所の紹介によって本町センターの空き店舗のシャッターを開けることになりました。ギャラリーや美術館ではなく、商店街のはずれにあるこの古い公設市場の跡で現代アートの作品を展示し「いかにして作品を最善の方法で、新しい見せ方や新しい伝え方ができるか」を実践できるか私たちは考えました。
real SOUの会場として、この本町センターでわずか2年の間に5回の展示を行いました。
元公設市場の空き店舗が並ぶこの場所は、鏡があちらこちらの壁にある元ブティックの部屋、白いタイル貼りの元麺販売店の部屋、元手芸店の部屋や商店の2階の謎の部屋など、それぞれの部屋は内装や空間が全く違い、そこにはそれぞれの物語の跡が残っていました。
合計5つのスペースをギャラリーとして設定し、毎回4組の作家の作品を紹介しました。時には一つのスペースに違う作家の組み合わせで
展示し、時には部屋ごとを個展のようなかたちで作家を紹介しました。
回を重ねるごとに作品と展示スタイルは多様化し、写真作品や映像の上映も行いました。
5回の展示を終えて今思うことは、これほどreal SOUの展示環境にふさわしい場所はないだろうということです。使われていなかったそれぞれのスペースが、作品を展示することで別空間へと変わり、個性のある部屋と作品とがお互いを引き立たせ、空間を一変させました。

展覧会は真夏や真冬に開催するすることが多く、エアコンのない会場での準備や開催は決して快適ではありませんでしたが、そんな中でも多くの方の来場がありました。
アート作品を鑑賞する目的で来場いただく以外にも、別の角度から興味を持ち、アートに触れていただくきっかけ作りとなるような様々なイベントを設定しました。JR総持寺駅のSOUでの大型プリント展示から本町センターで実物の作品を見るためのアートウォークツアーや、近隣の商店にご協力いただいたまちなかクイズラリー、またアートとまちづくりを考えるトークイベントや、作家さんを招いてトークイベントもおこないました。また会場の一部屋を使って、大学生や様々な方に個性あふれる手作りのカフェを営業していただき、飲食や交流を生み出すことによってカジュアルに作品鑑賞できる場づくりを実現しました。

この取り組みはまったくの手作りで、何もわからない、何もないところからたくさんの方の協力をいただきながらの出発でした。最初はひたすら掃除、少し資金があればペンキを塗り、もう少し資金があればスポットライトを設置し、少しづつ展覧会場をアップデートしてきました。
そして何よりこの場所を自由に使わせていただけたことが、作品を丁寧に展示することができた大きな要素でした。壁に釘を打って作品を展示したり、ペンキを塗ってギャラリーとして再生したり、カフェを営業したり、一見終わってしまったと感じてしまう場所を何か始まる場所に転換させることができたのは、その自由が許されたからです。

この場所で回を重ねて展覧会を行う毎に、毎回立ち寄っていただくご近所の方、近隣の店舗の方たちの作品に対する反応が変わっていくことを実感しました。初めは「わからない」という意識から「面白い」「これが好き」と、作品をそれぞれの楽しみ方で鑑賞する姿勢へと変化していきました。作品に対しての意識が少しづつ変化したことは、日常の生活に近い場所で展示したこの展覧会の大きな意義となりました。小さな子供から年配の方まで、アート関係者の方はもちろん普段アートに触れる機会のない方、SOUの展示を観て興味を持たれた方、様々な方が作品を鑑賞されました。
日常の時間の中にあるこの本町センターは、来場いただいた方にアート作品がもっと身近なところに存在するということを気付かせ、作品に対する自由な感情を引き出しました。

私たちは次の新たな展示場所をこれから探すことになります。
展示場所だったいくつかの部屋には新しい店舗が入り、本町センターの嬉しいリスタートとなりました。
この本町センターで、来場者の方や近隣店舗の皆さん、多くの作家さんや茨木市の様々な課の職員さんが集い、その顔ぶれと皆さんとの出会いは、ひとつひとつが奇跡のようでした。ここでしか出来なかったこと、ここだから生まれた出会いを懐かしく思いながら、私たちはまた新しい場所でそこにしかない空間と出会いを生み出さなければなりません。

本町センターの展覧会にあたり、これまでご協力いただいた多くの方々に深く感謝申し上げます。
次の場所でまた新たな出会いがあることを願い、様々なアートを多くの方に紹介してまいります。

2021年5月
One Art Project｜稲垣元則・藤本聖美

本町センター｜2021年4月

その後の本町センター｜

本展覧会の取り組みの中で多くの方に評価をいただいたことの一つが、この本町センターの空間そのものでした。20〜30 年前は普通にあった古い木造家屋が今では「古民家」と呼ばれ、現在多くの再活用や価値の見直しが行われています。当時は気づかなかった歴史のかたちが時を経て再確認されることがしばしばあります。もしかしたら本町センターもそのような可能性を持った場所なのかもしれません。ある人にはかつての懐かしい光景が残った場所であり、それを知らない人は時代の一端を感じる異空間だったりします。
街が変わっていく中での再開発や刷新的なリニューアルではなく、本町センターは私たちにとって街が豊かになるということを考えるための気づきとなりました。廃れていくものと、それが再解釈による新しい価値づけの転換となるものの間（はざま）にこの本町センターはあるのではないでしょうか。

その後、いくつかの空き店舗には新しいテナントが入居し、本町センターの様相は変わってきました。また様々なイベントも開催されるようになりました。ここを使う誰もがこの本町センターの特有の魅力を感じ、この空気を残しながら新たな取り組みをしようと考えていると聞きます。

展覧会（real SOU #2~#6）｜

主催｜
One Art Project

共催｜
茨木市文化振興課／スポーツ推進課／政策企画課／都市政策課

出品作家｜
岩田小龍／富倉崇嗣／三宅砂織／茨木市在住の 27 名の小学生／橋本良平／長谷川一郎／岡本啓／ミヤザキ／安田知司／濱中徹／高倉大輔／松井智恵／宇仁英宏／鈴木崇／古畑大気／ THE COPY TRAVELERS ／松田豊美／林勇気／張騰遠／阿部海太

協力｜
茨木市居住政策課／本町センター／中央産業株式会社／ TEZUKAYAMA GALLERY ／上原敏史／茨木商工会議所／立命館大学／O ギャラリー eyes ／ Yoshiaki Inoue Gallery ／ capacious ／ MEM ／喫茶もとまち運営委員会／ unit 0 ／ art space co-jin ／アトリエ・ウーラ／ NEWLY ／ Gallery Nomart ／ N.Imanaka ／ GLAN FABRIQUE

後援｜
茨木市観光協会

補助金｜
チャレンジいばらき補助金活用事業／公益財団法人大阪コミュニティー財団・匿名基金 No.22

記録集｜

企画｜
茨木市都市政策課／ One Art Project

編集・デザイン・写真｜
One Art Project

執筆｜
杉浦啓太／加須屋明子／古畑大気／井上朋

協力｜
本町センター／中央産業株式会社

※順不同・敬称略

発行｜
茨木市都市政策課／ One Art Project
2021 年 6 月発行

© One Art Project 本書の無断転写、転載、複製は禁じます。

SOU-JR 総持寺駅アートプロジェクトウェブサイト
www.sou-art.com